


10 天神信仰と神仏習合

【全4回】／開催方法：

かとう
加藤みち子

武蔵野大学仏教文化
研究所 特任教授
中村元東方研究所
主任研究員



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：8月16日)

【日程・時間】【全4回】 8月19日(土) 13:20~14:50・15:00~16:30
8月20日(日) 13:20~14:50・15:00~16:30

■受講に必要なもの

[テキスト] レジюме配布

菅原道真をまつる「天神信仰」は、現在でも盛んですが、天神信仰の背後に、いわゆる、神仏習合の現象がみられること、そして、天神信仰にも思想的に変遷があることは以外と知られていない事ではないかと思えます。本講座では、天神信仰の系譜と展開について、仏教との関わりに注目しながら読み解いていきます。

1 時限目 菅原道真と天神信仰の成立

まず、菅原道真公が、なぜ「天神」としてまつられるようになるのか、について、生前の道真公の事績のほか、時代背景や、御霊信仰など、平安時代の人々の信仰世界からひもといていきます。

2 時限目 なぜ「天満宮」なのか？ 一天神信仰と仏教のかかわり

2時間目は、天神様を祀る神社がなぜ「天満宮」と呼ばれるのか、その背景を仏教とのかかわりや、「渡唐天神像」との関わりから読み解いていきます。

3 時限目 天神信仰の諸相 一崇り神、火雷天神から、菅原家の氏神・鎮護国家の神へ

天神信仰は、当初の「崇り神」としての信仰にとどまらず、火雷天神、菅原家の氏神・鎮護国家の神など、さまざまな意味をもって信仰が展開します。ここでは、天神信仰の諸相をご紹介します。

4 時限目 天神が、なぜ「学問の神」なのか？

現在、天神といえば、受験合格を祈願する「学問の神さま」として知られています。ここでは、現在に至る、学問の神としての「天神信仰」の系譜を仏教との関わりと歴史的展開を踏まえて見ていきます。

【参考文献】

- 坂本太郎著 『菅原道真』 吉川弘文館〈人物叢書〉、1989年
竹内秀雄著 『天満宮』 吉川弘文館〈日本歴史叢書〉、1996年
神社と神道研究会編 『菅原道真事典』 勉誠出版、2004年
今堀太逸著 『権者の化現 一天神・空也・法然』 思文閣出版、2006年
瀬田勝哉編集 『変貌する北野天満宮：中世後期の神仏の世界』 平凡社、2015年